

令和元年度 秩父地域森林活用等創出支援事業 遂行状況・活動状況報告書

事業名：準防火地域の木の家(H27・30)

団体名： 一級建築士マツザワ設計



事業の目的・内容



森林環境税などの動きの中で、都市部での木材利用活性化を図りたい。

木の構造強度（重量比）と断熱性、燃え代による準耐火性能を活かした利用が重要になる。

今年度は品川区の不燃化特区での木造2階建準耐火構造の中で秩父材の利用。

利用範囲は構造材、羽柄材、内装材（板）、そして1時間準耐火大臣認定を取得しているW・A・L・Cに包まれたリスニングルームである。住宅の構造材については燃え代設計とし、150角の杉・桧柱、燃え代分加算した杉の梁とし、床はほとんどが国産無垢材を利用している。リスニングルームは内部杉集成材現しのW・A・L・Cの1時間準耐火仕様で、外断熱の外部をガルバリウム鋼板で覆っている。内部は人に優しく、音響も考慮した厚板を現しとし、外部はメンテと耐久性を考えガルバ仕上としている。木材の長所を活かし、欠点は極力抑える使用方法を採用した今回の建物は、今後増えるであろう都市部（準防火地域など）での木の家の可能性を確認したものである。



今までの活動状況

燃え代設計の住宅はまだまだ普及していないが、可能性を示す事で数は増大すると思われる。

W・A・L・Cによる1時間準耐火仕様は鉄骨造にカーテンウォールとして厚板集成版を利用するのが標準仕様だが、今後告示の利用も含めて、木造在来工法等への利用も増える事が予想される。

その為の発信を継続したい。



これからの活動・行事

品川区の準耐火住宅は、メディアでの紹介を含めて、多くの方の目に留まるようにしたい。

W・A・L・Cは簡易な施工方法で利用出来るため、利用者に対する発信を続けたい。

公共建築を含めた小中規模の木造建築での利用をC・L・Tの動きに合わせて進めるつもりだ。